

## 環境審議会「循環型社会構築部会」報告

## 1 開催日時等

## (1) 開催日時

令和4年8月25日(木) 15:00~16:00

## (2) 開催場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウエストルーム

## (3) 議題

ごみ減量施策の実施状況等について

## (4) 出席者(出席者8名、欠席者1名)

|        |         |        |    |
|--------|---------|--------|----|
| 松藤 康司  | 委員(部会長) | 田中 綾子  | 委員 |
| 阿部 真之助 | 委員      | 中山 裕文  | 委員 |
| 大森 一馬  | 委員      | 久留 百合子 | 委員 |
| 平 由以子  | 委員      | 松野 隆   | 委員 |

## 2 概要(ごみ減量施策の実施状況等について)

資料 2 - 2

## (1) 事務局からの説明概要

「循環のまち・ふくおか推進プラン」に基づき、ごみ処理量の推移やごみの組成割合のほか、令和3年度におけるごみの減量施策の実施状況について説明した。

## (2) 要旨

事務局の説明の後、委員からごみ減量施策の取組み状況、プラスチックや食品廃棄物のリサイクルに関する取組みなどについて質問や意見があり、福岡市より考え方等について回答した。

議論を踏まえ、ごみ減量のため、施策の一層の具体化と、更なる啓発に努めることを市に求めた。

(3) 主な意見と考え方等

| 意見   | 意見に対する事務局の考え方等   |
|--|--|
| <p>事業系ごみ処理量が大きく減少しており、コロナの影響という話もあったが、コロナ以外の要因で減っているのであれば、中間目標の数字などの見直しを検討しなくてはならなくなる。</p> <p>雑がみや事業系ごみの分別など施策の効果とコロナの影響を分けて解析できるようなデータがあれば、より議論が進むのではないか。</p> | <p>コロナの影響とごみ処理量の関係をデータで示すためには、今後さらに検討、研究を進めていく必要があると考えている。</p> <p>循環のまち・ふくおか推進プランは5年ごとの実行計画で構成しており、第2期実行計画策定の際には、必要であれば目標値の見直しも含めて検討していく。</p>  |
| <p>ペットボトルの水平リサイクルを試行的にされているが、今後どのように市として取り組んでいくのか。</p> <p>企業もリサイクルに取り組んできているので、下支えとなる回収のところで、洗浄に対する啓蒙など、市民が協力できるところを挙げて啓蒙をしていくことが市の役割だと思うので、是非取り組んでもらいたい。</p>  | <p>今まで日本容器包装リサイクル協会を通じて、ペットボトルや食品トレイ、卵パックなど様々なものにリサイクルされていたものを、ペットボトルへのリサイクルに限定した場合にどれくらい高い効果を得られるのかを検証しており、その結果も踏まえて、今後の方針を決定する。</p> <p>適切な排出方法の啓蒙については、あらゆる機会を捉えて、引き続き取り組んでいく。</p> |
| <p>プラスチックなどの容器包装の削減に関しては、企業側の取り組みがより一層必要であり、行政には業界全体の後押しをしてもらいたい。</p>  | <p>プラスチック資源循環促進法において事業者には製品の製造や自主回収に対して一定の役割が課せられており、市内においても企業による自主回収が進んできている。今後もあらゆる機会を通じて、事業者と連携した取組みを検討していきたい。</p>  |
| <p>福岡市のような消費型の都市は、ものづくりにもフォーカスをして、業界団体にもっと考えていただくよう言っていかなければ、特に紙やプラスチックごみを減らしていくことは難しい。</p>  | <p>事業系ごみ資源化推進ファンドの活用による事業者支援など、ものづくりなどにフォーカスした視点も含めて、今後施策を検討していきたい。</p>  |
| <p>若者を中心に、都市部からコンポストに取り組む人が増えてきている。意識を変えるには実践行動が大事であり、コンポストを始めると食品ロス削減の行動も増えるというデータもあるため、福岡市と一緒に効果的な方法を考えていきたい。</p>  | <p>コロナ下で、コンポストに興味を持たれる方も増えている状況と聞いており、どう広げていくのがよいのか検討しているところだが、できた堆肥の使い道などは、都市部である福岡市にとって大きな課題であると認識しているため、上手く使える方法を研究していきたい。</p>  |
| <p>SDGs などの浸透で、ごみ減量・リサイクルに対する社会的な機運も高まってきており、地道な活動ではあるが、継続して啓蒙を行っていくことによって市民の意識は変わらと思うので、行政にはぜひ啓蒙に力を入れてもらいたい。</p>  | <p>広く市民の理解を深め、ごみ減量に向けた実践行動につなげるため、市政だよりやホームページによる啓蒙のほか、SNSの活用や事業者と連携した啓蒙など、あらゆる機会を捉えて、ターゲットに応じた効果的な啓蒙に引き続き取り組んでいく。</p>   |